

西脇市・多可町合同で「山田錦研修会」を開催

(要約)

2月15日、多可町中央公民館で、西脇市・多可町担い手育成総合支援協議会が合同で「山田錦」研修会を開催しました。山田錦生産者やJ A・市町関係者約150人が集い、海外輸出の広がりを見せる高級日本酒の原料である酒米「山田錦」について、増産政策と栽培技術、日本酒の将来展望について研修しました。

(内容)

平成26年2月15日、多可町中央公民館で、西脇市・多可町担い手育成総合支援協議会が合同で「山田錦」研修会を開催しました。昨年末から酒造好適米が生産数量目標の枠外で生産可能となる政策が打ち出され、「山田錦」生産の多い、西脇市・多可町でもJ Aが増産の推進をしています。そこで、施策を周知し、増産意欲を高めてもらうため、西脇多可酒米振興会・北はりま山田錦部会後援で研修会を企画しました。

あいさつの中で、地元選出の藤井衆議院議員は、酒米が生産調整の枠外で生産できる政策ができた経緯を説明され、山田錦を生産するこの地域のためにできた政策なので、ぜひ活用してほしいと訴えられました。

研修会ではまず、普及センターからグレードアップ山田錦収量向上のための実証結果について紹介しました。次に近畿農政局神戸地域センターから、酒造好適米の政策について、全農兵庫がグレードアップ兵庫県産山田錦の情勢と生産・販売方針について説明しました。

続いて、「山田錦と日本酒の未来」と題して、日本酒販路コンサルタントの(株)ヴィザヴィ神戸 代表取締役 山内真智子氏が講演されました。「日本酒の輸出は吟醸酒によって新たな需要が生まれ、和食のユネスコ無形文化遺産登録も追い風となり、今後ますます伸びるだろう。栽培から精米、酒造りの工程は丁寧に手間暇かけて作られる、それは日本の文化そのものであり、世界に誇る日本酒に山田錦はなくてはならないのだ」と話され、参加した生産者は山田錦生産に対するモチベーションを高めたようです。

普及センターは26年度も山田錦の高品質高位安定生産にむけて、技術的なサポートなどの取り組みを強化します。



研修会パネル展示



山田錦研修会